

報告ダイジェスト

- ・第22回社員総会開催報告 (報告1)
- ・永年勤続表彰式 (報告2)

報告1 第22回社員総会開催報告

5月27日(土)、第22回特定非営利活動法人ぱれっと社員総会を4年ぶりに対面にて開催しました。各事業ごとに2022年度総括、決算、2023年度目標、予算について審議が行なわれ、すべての議案が滞りなく承認され、新たな動きも始まりますのでご報告します。

【当日の成立状況】

2023年5月27日現在の正会員数 331名 (内訳：A会員182名/B会員140名/マンスリーサポーター9名)

《表決》 ハガキ 38名 FAX6名 インターネット 17名 合計 61名

《委任》 ハガキ 101名 FAX11名 合計112名 (※委任、表決両方提出の会員は表決を優先)

《当日出席正会員》 71名 有効議決権合計 244名 過半数により成立

●議事進行の様子

冒頭、相馬理事長の挨拶の後、定款に沿って今回の総会の成立状況を確認し、正会員田口雄一氏を議長に、相馬理事長、南山事務局長を合わせた3名を議事録署名人に選出し、審議に入りました。

今回の議案は、下記のとおりです。

- 1号議案：法人事務局/広報啓発(案)
- 2号議案：余暇活動支援事業(案)
- 3号議案：就労支援事業(案)
- 4号議案：グループホーム運営・緊急一時保護事業(案)
- 5号議案：障がいのある人とない人の共同生活支援事業(案)
- 6号議案：国際支援事業(案)
- 7号議案：定款変更について
- 8号議案：会員制度の変更について

会員の皆様はすでにご存知のことと思いますが、第18回の総会より議案書を画像を用いたわかりやすい内容に変更し、当日の議案も事業ごとの報告に切り替えました。この方法についてはまだまだ試行錯誤の段階ではありますが、難しい文字の資料をただ読むだけでは無く、スクリーンに映しながら説明する形にしたことで1年間の活動をより身近に感じていただけたことと思います。それでもやはり会計資料などは限られた時間の中でどれだけ説明できたかという反省は残りますが、出来る限り改善をしつつ今後もこの形を続けていきたいと思っています。

当日は第1号から第8号の各議案について多くの方々の賛成をいただき、無事に承認されました。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

(事務局 局長 南山達郎)

《2023年度事業目標》

▶法人事務局

会員の拡大に向けて具体的対策を考える。

▶会員拡大委員会の発足 ▶会員種別の新設(賛助会員B)

▶広報啓発事業

◆事業紹介・寄付金獲得・会員増など「目的別パンフレット」作成に着手する。

▶会員拡大委員会との連携

▶たまり場ぱれっと

◆1日プログラム・宿泊行事などプログラムの充実に向けたボランティア体制の強化。

▶5月より一日プログラムが復活 ▶宿泊行事を4年ぶりに開催(10月)

▶おかし屋ぱれっと/工房ぱれっと

◆店舗でカフェ営業や展示会等を行ない、賑わいを作る。

▶イトインを再開 ▶メンバーの製作した作品を展示販売

◆運動レクリエーションや外出プログラムを通して心身の健康を目指す。

▶作業を離れ、近隣の施設を使って心身をリフレッシュするプログラムを実施

▶メンバー、家族、職員とのコミュニケーションの場として日帰り旅行を企画

▶えびす・ぱれっとホーム/しずや・ぱれっとホーム

◆スタッフの外部研修の機会を増やし、フィードバックを通じて職員どうしのコミュニケーションを図るとともに、アルバイト含め支援体制のスキルアップにつなげていく。

▶他団体のグループホームや施設見学等外に出かける機会を増やす。

▶OJT(オンザジョブトレーニング…職場での実践を通じて業務知識を身につける育成手法)を意識し、現場で話し合う機会を積極的に設ける。

▶ぱれっとの家 いこっと

◆居住支援事業を柱とした住宅確保要配慮者の生活支援の充実を図っていく。

▶次ページの「居住支援事業について」をご覧ください。

▶ぱれっととインターナショナル・ジャパン(PIJ)

◆海外協力という形でPIJの役割を継続していく。

▶主にネパール及びモンゴルとのつながりを通して、現地を訪問し、作業所立ち上げへのアドバイスやスタッフ研修招聘の機会を設ける。

記録映像の視聴について: 当日の審議の様子を撮影した記録映像をご覧になりたい方はぱれっと事務局までお問い合わせください。インターネットで視聴できます。

03-5766-7302 または palette@npo-palette.or.jp 担当: 南山まで。

●居住支援事業について

今回の総会では、各事業の議案の他、ふたつの変更について承認されました。そのうちのひとつが、定款に新たに事業として加わった、「居住支援事業」です。居住支援とは、国土交通省が進めるセーフティネット住宅制度に基づき、「住宅確保要配慮者」と呼ばれる、住まいの確保や生活支援に関して何らかの課題を抱えていて、様々な配慮が必要な人たちに対し、入居前の不動産情報提供や、入居後の生活支援(相談や見守りなど)を行なう事業です。ぱれっとが運営してきた、「ぱれっとの家 いこっと」では、創設以来、すでにその一部を実施していると言っても良いと思いますが、今回定款に明確に謳うことにより、渋谷区の居住支援課とも連携がスムーズになり、月額40,000円の家賃補助(条件あり)や、さらに専門的に事業を行なうにあたり人件費などの財源を確保するための「居住支援法人」取得の見通しを立てることができるようになりました。ぱれっとは今年2月に立ち上がった、渋谷区居住支援協議会の役員にも障がい者福祉の分野から名を連ねていて、今後区内の不動産関係者や学識者との連携を深め、グループホームや入所施設だけではなく住まい方の選択肢作りに取り組んでいこうと考えています。しかしながら、重要な柱として導入を考えている「居住支援コーディネーター」の人件費捻出が现阶段では大変難しく、昨年実施したふるさと納税を活用したク

ラウドファンディング(寄付金募集)でも多くの方々からご支援をいただきましたが、十分な資金確保には至っていません。新たな住まい方の選択肢とその仕組みを作るためにも、皆様からのご支援を引き続きお願いしているところです。

●個人賛助会員B(年額3,000円)の創設

もうひとつは、現在年額10,000円となっている賛助会員に新たに年額3,000円の「賛助会員B」を作ったことです。東京都から認定NPO法人の認証を受けているぱれっとでは、賛助会費は「寄付金」として処理することが出来ます、A会員、B会員、マンスリーサポーターの「正会員」が持っている、総会の議決権などの権利はありませんが、寄付金は確定申告をすることで税制優遇を受けることができます。前のページにあるように、法人運営では、2023年度「会員拡大」を目標として掲げました。今回の会員制度改革を目標達成の手段のひとつとして位置付け、広く入会を呼び掛けていこうと思います。もちろん現在正会員の方々の移行も受け付けます。お気軽にご相談ください。また、この機会に親族や友人などにもお声かけいただき、ぱれっとのサポーター、応援団を増やしていただきたいと思います。皆様のご協力を心よりよろしくお願い申し上げます。

(事務局 長 南山達郎)

【問い合わせ】

03-5766-7302 または palette@npo-palette.or.jp

担当: 南山

報告2 通所員勤続表彰式&サプライズ職員表彰式

5月27日地域交流センター恵比寿にて勤続表彰式が行なわれました。今年表彰されたメンバー5名を紹介したいと思います。

勤続年数35年の扇山範久さんは大量のクッキーの計量から製造、袋づめなど多岐にわたる作業を毎日頑張っています。25年の吉野晴美さんは、以前はおかし屋ぱれっと(以下おかし屋)に勤務していましたが、現在はその器用さで工房ぱれっと(以下工房)で個性豊かな大きな目のらぶらびを製作しています。15年の小西健也さんは販売会でのセールストークが大好評で、最近ではクッキーの袋詰めにもチャレンジするなど仕事の幅が広がっています。10年の竹森由維さんはおかし屋でケーキの製造をメインに頑張っています。作業がとても丁寧で後輩にも優しく教えてくれています。10年の黒澤朋子さんは工房でらぶらびの縫いぐるみを毎日コツコツと丁寧に製作しています。四角いフェルトが特徴のらぶらびです。

長年にわたっておかし屋、工房で一生懸命に働いた功績を讃えられた皆さんは、この日の為におしゃれをし、緊張した面持ちながらも自分の順番が来て表彰状と花束を受け取ると晴れやかな笑顔になっていました。これからも変わりなく、仲間達と職員、支えて

くれている親の会と一緒に力を合わせて笑顔絶やさず元気に頑張っていきたいと思います。



【表彰されたメンバー達と】

例年であればここで終わる予定になっていましたが、今年は谷口さんを含め職員の表彰式を初めて行ないました。谷口さんはぱれっとを創立して40年、相馬さんは勤続35年、南山さんは事務局長になり10年、高尾さんは20年(ボランティアの期間も合わせると37年)になります。長い間ぱれっとに、そして私たちの為に尽力されたことに感謝状を贈りましょうと職員の中から提案があり、サプライズで式を行なうことにしました。メンバーに表彰状を手書きで書いてもらったり、こっそり読み上げの練習をしたりと、「当日まで内緒でね」と細心の注意を払いながら準備を重ねていきました。

表彰された方々にはとても喜んでもらい、その笑顔(と涙??)に私たちも感動しました。これからも見守ってもらいながら、一緒に笑顔で元気に頑張っていきたいと思います。

(工房ぱれっと 宮越三映子)